

## 開会の挨拶

北陸信越工学教育協会 会長  
金沢工業大学 学長  
大澤 敏 氏



只今、ご紹介を戴きました北陸信越工学教育協会会長、金沢工業大学学長の大澤 敏でございます。本日は、平成28年度における本協会の年次シンポジウムを『女性技術者の活躍を促す工学教育の取り組み』と題して開催致しましたところ、年末の大変ご多用の中を多数の方々にご参加戴き誠に有難うございました。心より感謝申し上げます。

さて、本日の講演に関わることでございますが、国際比較統計によりますと、女性研究者の割合は、ヨーロッパで高く、特に北欧では50パーセントを超える国が多く見られ、アセアン諸国においても50%を超える国があります。米国においても30パーセントを超えています。それに対して日本は12パーセントであり、極めて低い状態にあります。工学系大学においても、女子学生の割合は12.5パーセントに留まっています。しかしながら日本が科学技術創造立国として、世界の中でイノベーションを牽引してゆくためには女性エンジニアの育成が不可欠であることは明白でございます。

例えば、商品の汎用化が進む中で存在感を出すためには、付加価値を打ち出すことが必須になりますが、この付加価値はデザイン、使い勝手、更には環境に関する視点が大きな影響を与えます。女性は男性と比べて、日常の不便さなどに敏感であるとされており、感覚や感性を発揮することが得意であることから、固定観念を打破した商品を生み出しやすいと言われております。イノベーションについても同様であり女性の視点からの商品開発あるいは研究が今後ますます重要になります。このような状況の中で、日本の女性エンジニアの活躍を促すために北陸信越地区の大学と企業が共同して工学教育の在り方を変えてゆくことが北工教の大きな使命であり、本シンポジウム開催の主旨でございます。そして、女性あるいは男性エンジニアという言葉自体の不自然さが無くなる形で協働ができる環境を築くことが日本の発展に繋がるものと考えています。

本日は、企業の技術系部門の第一線でご活躍の先生方のご講演、また女子学生の立場から北工教では初めて現役女子学生の講演もでございます。

まず初めに基調講演として、デンソー技術センター技術研修部 室長 磯貝恵美子氏から「企業で女性技術者の皆が活躍できるためには」と題してご講演をいただきます。

次に、招待講演として、本田技術研究所 四輪R&Dセンター統合制御開発室 研究員 塚田竹美氏から「リケジョ～女性エンジニアの懸け橋としてL A Jができること」と題してご講演を戴きます。

一旦休憩を挟み、金沢工業大学大学院バイオ・化学専攻で活発に研究活動を行っています七尾圭香さんから「金沢工業大学における女子学生の現状と課題」と題して女子学生の視点からの講演をお願いしています。

最後のご講演と致しまして、YKK 工機技術本部 基盤技術開発部の見角 裕子氏から「YKKにおける女性技術者への期待」と題してご講演を戴きます。

最後に石川工業高等専門学校校長の須田義昭先生から総括と閉会の挨拶を戴きます。

このように本シンポジウムは、日本が科学技術創造立国として、歩みを進めるための重要な位置づけとなります。活発な意見交換のもとで、本シンポジウムが実りあるものとなることを期待して、開会のご挨拶とさせていただきます。

ご清聴有難うございました。